

平成24年度講演

米国の理工系大学院の特徴

東京大学大学院工学系研究科 国際工学教育推進機構

バイリンガルキャンパス推進センター

共催 東京大学実践型リーダー養成事業「イノベーションリーダー養成演習」(PCIL)

日時：10月30日(火) 14:00~16:00

場所：工学部2号館3階231号室

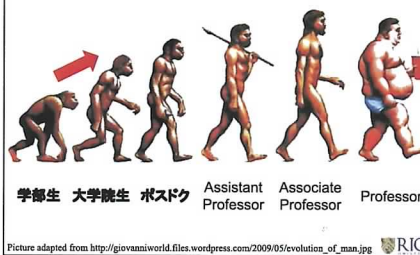
講演者：河野淳一郎 米国ライス大学教授 (本学物理工学修士修了)

講演名：米国の理工系大学院の特徴

米国の理工系大学院の特徴

- 博士一貫教育 (修士課程を含む)
- 学生・教員の流動性
- 国際性
- 院生の経済的自立
- 激しい大学間の競争
- 研究遂行機関かつ研究者養成機関

学部から大学院へ



学部生 大学院生 ポスドク Assistant Professor Associate Professor Professor
Picture adapted from http://giovanniworld.files.wordpress.com/2009/05/evolution_of_man.jpg RICE

大学院生に対する財政サポート

- 1年目: TA (Teaching Assistantships) または Fellowships
- 2年目以降: RA (Research Assistantships) または Fellowships
- 給料 (年俸2万ドル以上)
- 授業料全額免除
- 経済的に独立して研究に打ち込める

大学院生獲得競争

- 評判(reputation)の重要性
- より質の高い大学院生 → いい研究結果 → 高い評判 → より多くの研究資金 → より多くの研究結果 → ...
- 積極的な宣伝・情報提供 (e.g., ウェブページの充実化)
- 入学許可オファー後の電話・メール攻勢
- キャンパスへの招待・接待
- 高い給料

学部生から大学院生へ

- 学部と同じところには行かない
- 少数精鋭の有名「学部大学」(Elite Colleges)の存在:

Bowdoin College, Barnard College, Bryn Mawr College, Claremont Colleges (Harvey Mudd & Pomona), Colby College, Davidson College, Morehouse College, Oberlin College, Smith College, Swarthmore College, Wellesley College, Williams College, ...

研究室への入り方

- 情報収集: どの研究室が学生を募集しているか? どんなプロジェクトがあるか? 研究室の雰囲気はどうか? 等
- 教授とアポイントメントを取る → 会って話す (プロジェクトの概要を聞く、自分の興味・目標・経験等について話す)
- 試しに働いてみる
- 大学によっては「ローテーションシステム」があり研究室を回れる

大学院の1-2年目

- 8月入学時には研究室配属されない
- 1年目: TAをし、授業を取りながら研究室を探す
- 通常は1年目の春学期中(1月~5月)は研究室決定
- 授業で基礎学力を鍛える
- 2年目末までには必要数のクラスを取り終える

日本の大学院生との違い

- 研究室にいる時間の長さ(効率主義)
- 結果重視
- 解雇の可能性(教授との関係)
- プロ意識・目的意識・モチベーション

大学院入学審査・選考

- 高い成績 (GPA: Grade Point Average)
- 高いGRE (Graduate Record Examination) の成績 (Rice:最低V600, Q770)
- TOEFL (外国人のみ) Riceでは最低 600 (paper-based) または 250 (computer-based)
- 推薦状
- エッセイ
- その他(発表論文等)

研究経験・将来性を示すもの

問合せ先

東京大学大学院 工学系研究科 国際工学教育推進機構

バイリンガルキャンパス推進センター(工学部2号館91C号室)

URL: <http://gciee.t.u-tokyo.ac.jp> Tel: 03-5841-8800